

壮大なほら話に笑い声絶えず

第3回うそ八百ほら吹き大会

中泊町や津軽地方に関する夢のある構想を「ほら」として発表し、まちづくりのヒントにしようと駅ナカにぎわい空間実行委員会(会長・夏原謙二)が、4月16日(日)駅ナカにぎわい空間で第3回うそ八百ほら吹き大会を開催しました。約250人が来場、大会には7組が出場し、自慢のほらを次々と発表していききました。

米ケルやイカリんに人工知能をつけて会話できるようにするホラや、歌を上達させるために有名な歌手の元に弟子入りしようとしたホラが発表され、会場からは大きな笑い声が聞こえてきました。

発表後は、なんでもかたるべしうらによる踊りや、べえ子ちゃんらによるダンスなどが披露され、会場は変わらず盛り上がりました。



優勝した笹沼正悦さん



今年は、むつ市から参加した笹沼正悦さんが優勝を果たしました。究極の魚と題し、メバルとサメを掛け合わせたサメバルを開発、「サメバル御膳」が大ヒットしたというホラを披露しました。

来場者は「大きな声で笑ってしまつた。今度は私が参加できるようにほら話を考えて」と笑顔で話していました。

勝ち越しを報告

阿武咲関が訪問

3月に行われた大阪場所を9勝6敗で勝ち越した阿武咲関が、3月29日(水)、役場を訪れ小野町長(当時)に報告しました。

小野町長は「ハラハラしてテレビを見られないときもあったが、よく頑張った。これから勝負どころ、期待している」と激励しました。

阿武咲関は「皆様の応援のおかげで勝ち越すことができました。ありがとうございます。あと1勝できなかったことが悔しい」と話していました。

5月1日には新入幕昇進が決まり、それを受けて、阿武咲関は「しっかりと稽古をして上を目指したい。これからも応援をよろしく願います」と話していました。

